

「備え、守り、助け合う」防災・減災のまちづくり研修会 報告書

# 湯平地域 災害の記憶と復興

## 報告書作成にあたり

令和2年7月豪雨の被害を受けたことをきっかけに令和3年度に全5回にわたる「備え、守り、助け合う」防災・減災のまちづくり研修会を開催してきましたが、今回その記録や成果などを報告書としてまとめることとなりました。

これまでも甚大な自然災害を被ってきた湯平地区ですが、令和2年7月豪雨では4人の尊い命が奪われる結果となってしまいました。令和4年9月台風14号でも被害が出たように近年は地球温暖化などの影響により自然災害が頻発しています。

この報告書はこれからの自然災害による犠牲者を出さないためにも、湯平地域の災害リスクを周知し、緊急時には早期地区外避難を原則として命を最優先に行動してもらうことを目的として作成しました。

冊子の中には住民、行政、学生など様々な目線からの考えを記載し、防災のみならず温泉街としてのまちづくりにも役立てられるような内容としています。

温泉街としての防災・減災活動を今後も長く継続していくために、住民の皆さんが中心となって、緊急時の地区の危険箇所や残された課題を解決し、これまでの教訓を活かしていただけることを願い保存版として使っていただけるよう報告書を作成しました。

この報告書を通して次の2つを皆さんに実現してほしいのです。

### ●湯平地区内での災害伝承の風化を防ぐ

過去の災害や地形などの特徴を知り、後世へ伝えていかなくてはこれまでの活動が無駄になってしまいます。同じ被害を繰り返さないためにも、どのような被害があり、どのような行動をすべきだったのかを再確認して、何十年何百年経っても災害に負けない湯平地区を守っていきましょう。

### ●地域外への早期避難の習慣化で1人も命を落とさない

普段からの地区内でのコミュニケーションを大切にすることが突如やってくる災害から命を守ることに繋がります。

この冊子は未完成で課題に対して解決策がわからない部分も多くあります。「どうしたらいいのか？」を皆さんで協力して解決していきましょう。

大分大学学生 CERD 南 太賀

# 湯平地域 災害の記憶と復興

## 目次

報告書作成にあたり .....	1
湯平地区の歴史 .....	4
災害リスクと過去の災害 .....	5
花合野川 .....	5
地すべり地形 .....	6
過去の災害 .....	8
災害の記録を伝え 過去から学び 教訓を活かす .....	9
『身近な災害』を調べてみませんか？ .....	9
令和2年7月豪雨の振り返り .....	10
令和4年9月台風14号 .....	11
図上訓練 .....	12

---

座談会	14
緊急時避難経路の危険箇所	18
災害から命を守る「我が家」の約束シート	20
防災意識	22
住民の皆さんの声	26
研修会を終えてのコメント	28

## 湯平地区の歴史



湯平温泉の始まりは約800年前の鎌倉時代と言われる。

約300年前に現在の温泉街の骨格ができ、花合野川に沿った石畳の坂道が作られた。

医薬品などが普及していなかった江戸時代には、湯平温泉が胃腸病に効くと有名になり多くの湯治客が訪れた。

明治時代には温泉街をほぼ焼き尽くす大火災が起きる。しかし、3年ほどで火災前よりも活気を持つ温泉街を復活させた。

戦前には療養型温泉として有名になり、九州では別府に次いで多くの入湯客が訪れる温泉街となる。

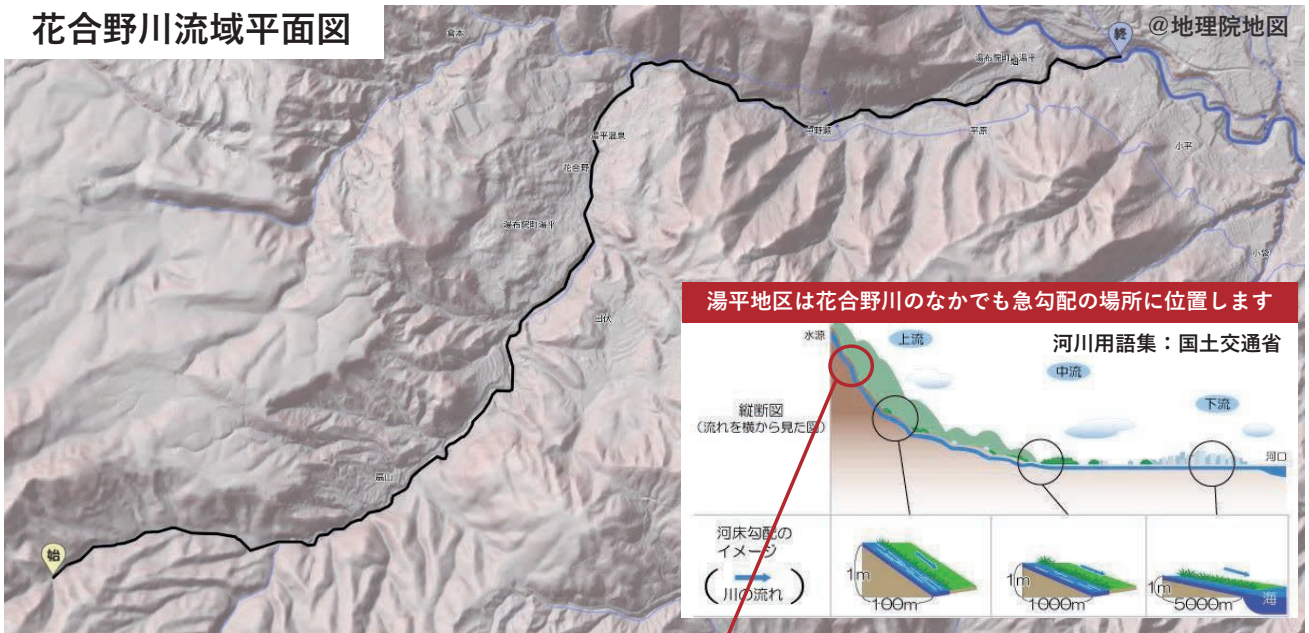
そんな湯平温泉は映画「男はつらいよ」のロケ地となり、最近ではアニメ映画のモデルに使用されたのではないかと話題になった。

温泉県大分の中でも花合野川に沿った温泉宿と下駄の似合う石畳は、湯平温泉でしか感じられない雰囲気があり、現在でも観光客を楽しませている。

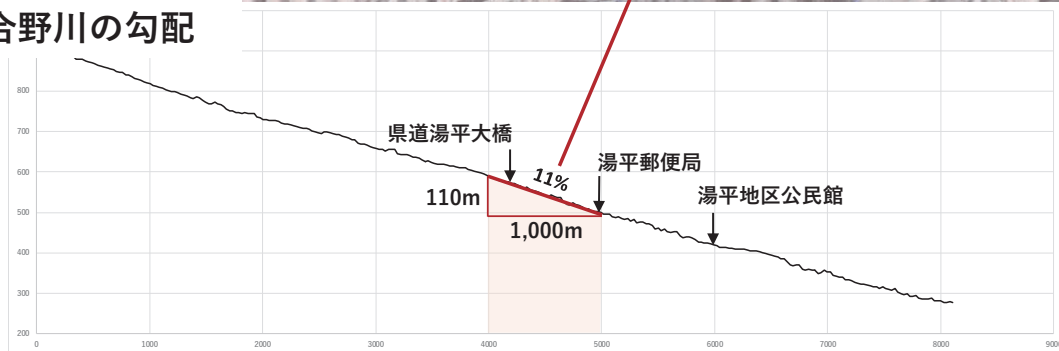
# 災害リスクと過去の災害

これまで襲ってきたのは災害だけではない。  
湯平地区は何度自然災害に瀕しても復興してきた過去を持つ。

## 花合野川流域平面図



## 花合野川の勾配



## 花合野川

湯平地区の中央を流れる花合野川、普段は温泉街の雰囲気醸し出している。しかし、図に示すように湯平地区を流れている流域は他の流域に比べ幅が狭いうえに傾きも急になっている。そのため、雨が降ると短時間で川の水量が増えるという特徴を持つ。



## 花合野川に関する過去の災害

昭和4年7月5日

大雨により多数の家屋が浸水

昭和11年7月6日

大雨により3棟の家屋が倒壊

昭和25年9月15日

暴風雨により5棟の家屋と4つの橋梁を流失、  
6カ所の堤防決壊、1カ所の崖崩れの被害が発生

平成17年9月6日

台風により土石流が発生し、その影響により花合野川が氾濫。民家に濁流が流れ込み、女性1名が犠牲となった



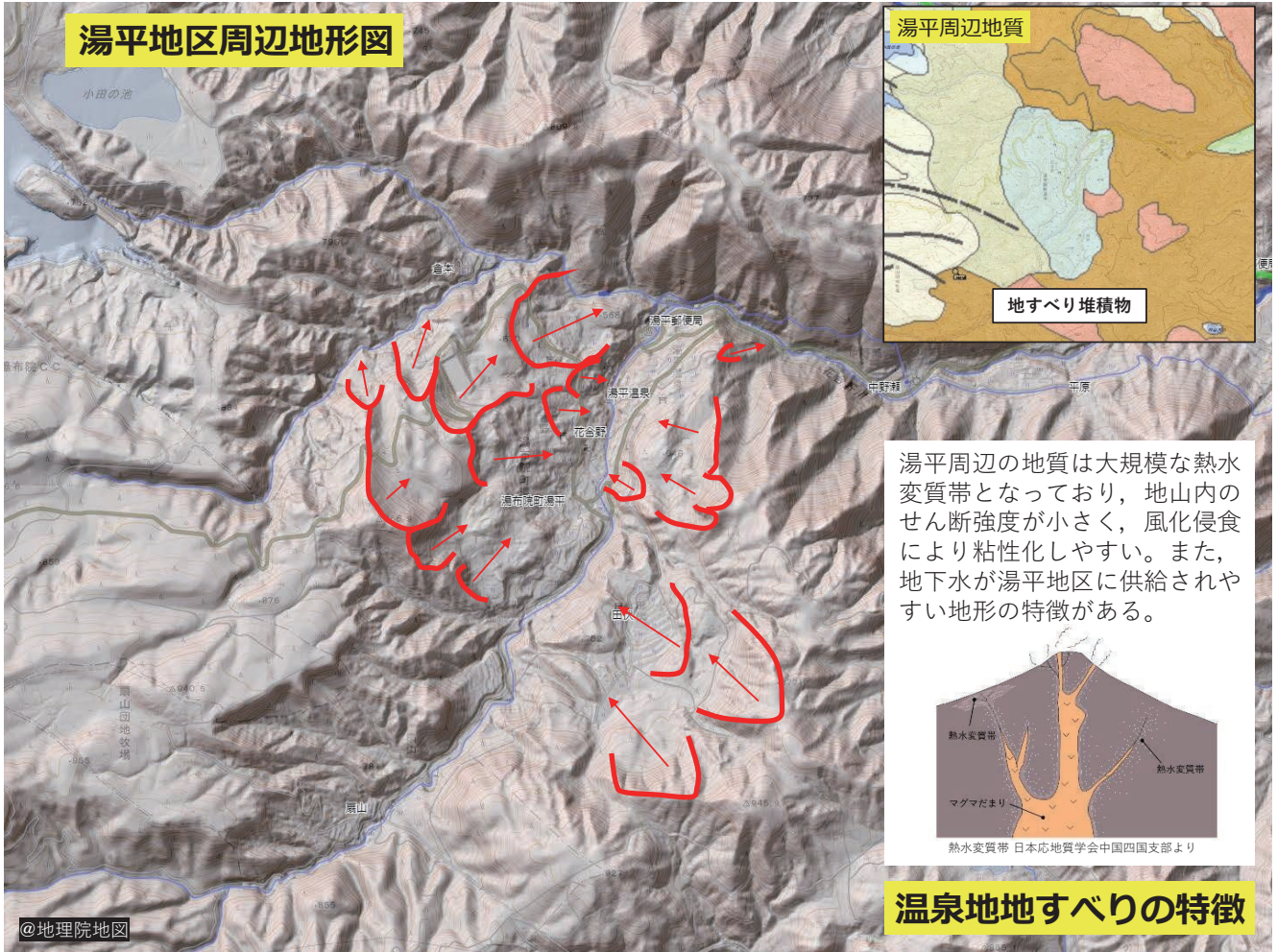
## 地すべり地形

湯平地区は谷の中にまちが形成されており、土砂崩れや土石流が発生しやすい地形となっている。更に温泉地であることと地下水位の関係で他の地質に比べ地すべりの発生リスクが高い。地すべりの発生により、花合野川に土砂が流入することで湯平地区が孤立する可能性がある。

平成5年9月3日

台風に伴う集中豪雨の影響により、幅約80m、奥行き約130mの地すべりが発生。平成6年7月から平成9年3月にかけて地面が18mm動いていることが確認された。

地滑りの対策として、地下水位を下げる集水井工の設置や杭による地盤の強化、地すべり監視システムなど大規模工事が平成30年に終了した。地すべりのリスクは軽減されたと考えられるが、今後の想定を越える豪雨の場合には地滑りの発生リスクに備えておかなければならない。





## 過去の災害

### 明治 45 年 4 月 20 日

火災により旅館や家屋をほぼ焼失するが、その後以前温泉街よりも活気を取り戻す

### 大正 6 年 4 月 15 日

火災により地域が全滅に瀕する

### 昭和 6 年 2 月 9 日

大雪・強風により送電線の断線・故障が続出

### 昭和 13 年 4 月 15 日

火災・強風により家屋 20 棟、小屋 4 棟が全焼した

### 昭和 50 年 4 月 21 日

大分県中部地震

推定震度 5 ～ 6 程度の地震が発生。家屋の屋根瓦の落下や 4 ～ 5 軒の旅館の土台が 20 ～ 30cm 押し出される被害が発生。崖崩れや落石も複数発生し、給水用の水道管が破損した。

過去には水害だけではなく火災や雪害の記録も残っている。数多くの災害を乗り越えて今の湯平地区がある。

花合野川に関する災害によって水害に意識が持つて行かれるが、最近では南海トラフ地震の発生リスクが高まっている。水害だけではなく、土砂災害や建物の安全性など幅広く意識を持つていなければならない。



# 災害の記録を伝え 過去から学び 教訓を活かす

享保8年（1723年）11月地震 マグニチュード6.5 山くずれや疫病など災害を後世に伝える「災害伝承碑」



県道湯平線沿いに建立された「熊の坂供養碑」災害を後世に伝えるための「災害伝承碑」としての役割も備えています。

町指定有形文化財 「熊の坂供養碑」

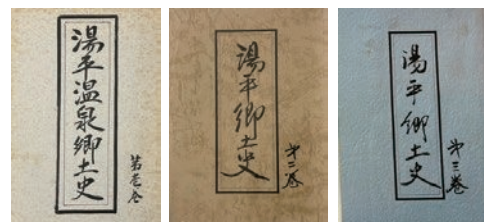
享保八年ごろ（将軍徳川吉宗のころ）湯平には何度も地震や山くずれがありました。このため温泉場では多くの人や家畜が流されまた疫病が流行（古文に「大蛇の毒気に死する者多し」とある）し多くの住民が死にました。そこで、木の上（大分市）の少林寺の寒岩和尚に病魔退治をお願いしました。寒岩和尚は少林寺で修行中の奥州仙台覚範寺の豪僧、大空離幻に命令して病魔を退散させました。その後、野津原谷村（現挾間町）（※看板は「狭」）の井路作りで有名な工藤三助兼治にお願いして地震の後の温泉場を復旧し石畳をつくりました。また当所に石橋を架け熊の坂井路を作るとともに地震や山くずれで亡くなった人や家畜の供養のためこの供養碑を建立しました。

湯布院町教育委員会

「湯平温泉郷土史」第巻巻 P27「結（供養碑）」より

（原文）享保年間湯平に大山汐があつて温泉場の人家多数押し流され 何人かの屍が比の熊の坂の川の曲地点にひっかかったと思はれ、其の時比処に懸けてあつた橋も流失し、新しく石橋が彼等七人（※）の手によって懸けられたと同時に溺死者の為めと流行病に仆れた人も含めて 供養碑がその時建立されたものと思はれます。この石橋も又後年の洪水に流失したものと思はれます。

※石碑に向かって左、極下の方には石橋工7名の名前が記載されています。



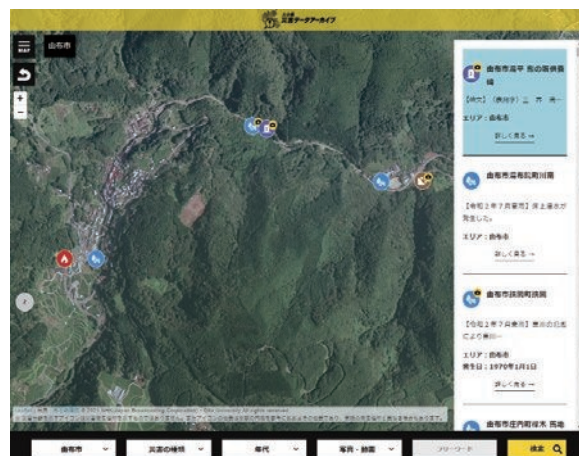
「湯平温泉郷土史」全第三巻 発行日 平成九年九月

## 『身近な災害』を調べてみませんか？



大分県災害データアーカイブには、およそ1,300年間約5,000件の災害情報が掲載されています。お住いのエリアからも過去の災害を検索できます。

【湯平地区周辺で発生した過去の災害】



↑お手持ちの端末からご確認いただけます。

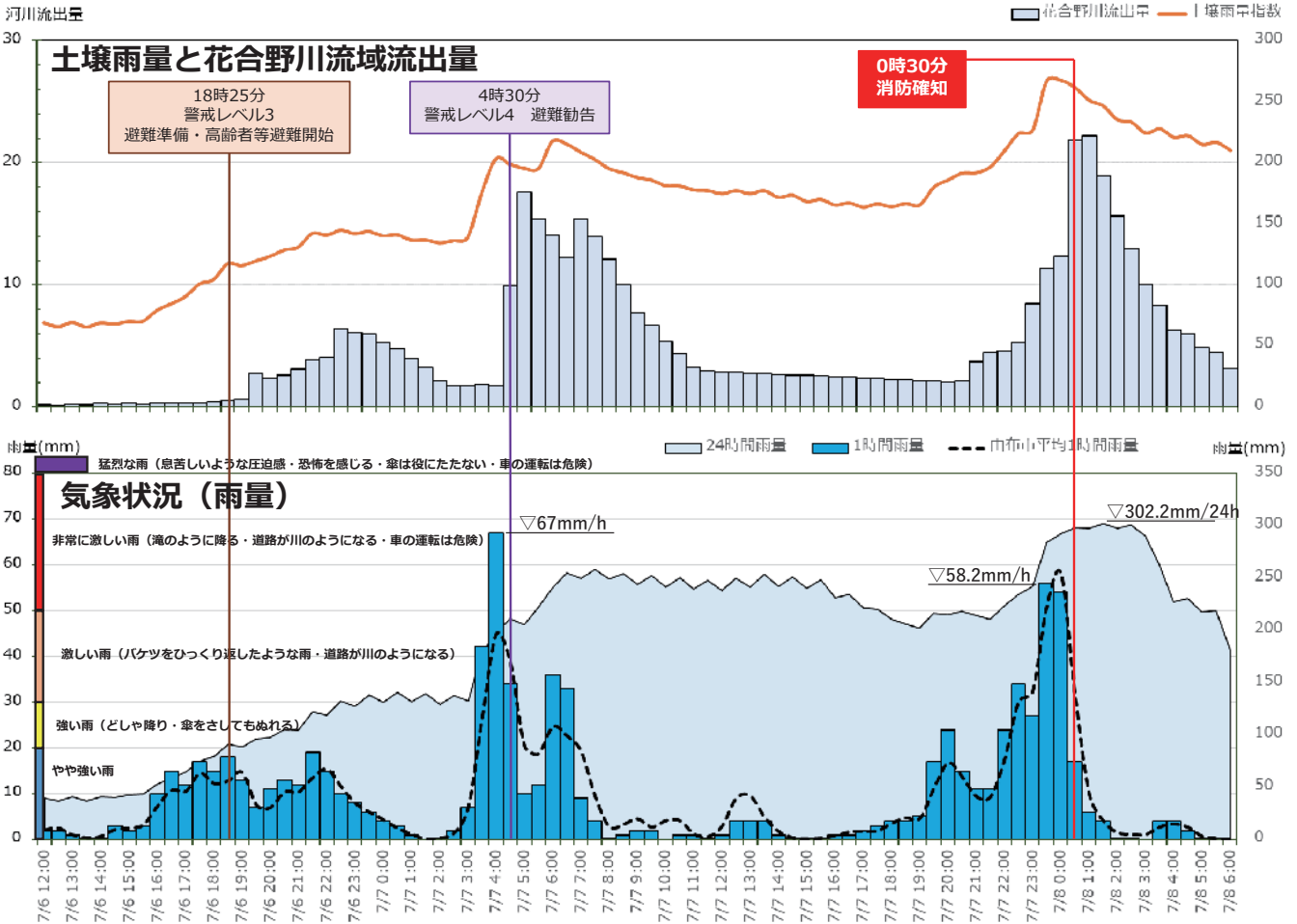


<https://archive.cerd-edison.com/>

# 令和2年7月豪雨の振り返り

令和2年7月豪雨 湯平地区の気象状況（7月6日12時～7月8日6時）

大分大学減災・復興デザイン教育研究センター（CERD）



上は令和2年7月豪雨の際の花合野川の水量・土の中に含まれる水分量・雨量である。雨が強くなると同時に花合野川の水量は増えるため、雨脚が強くなってからでは避難のタイミングを失ってしまう可能性が高いことがわかる。また、雨が落ち着いても土の中には大量の水分が残り続けるため、数日間土砂災害のリスクも想定しなければならない。



## 令和4年9月台風14号



令和4年9月19日に台風14号が大分県に最接近した。湯平地区では令和2年7月豪雨の被害を受け復旧工事が進められていた大分県道537号湯平温泉線が再び被害を受け、湯平地区への主要なアクセス道を使うことができなくなった。

その他にも土砂崩れや建物への土砂の流入の被害も発生したが、令和2年7月豪雨の記憶も新しかったことから早めの避難が行われ、幸いけが人の発生も確認されなかった。

この被害に伴い、9月23日から25日の3日間にわたり、大分大学学生および教職員による「災害ボランティア」が派遣された。

災害ボランティアは、由布市の湯布院町および庄内町に3日間延べ34名（学生21名・教職員13名）を派遣し、浸水や土砂の流入により被災した民家の泥出しや、周辺の土砂の除去など多岐にわたるボランティア活動を行った。参加した学生は「作業は大変だったが、被災された方はもっと大変なので、少しでも役に立てれば」と話していた。

## 図上訓練

令和3年10月28日に湯平ふれあいホールにおいて、第2回目のまちづくり研修会の中で図上訓練を行い、住民約20名が参加した。

令和2年7月豪雨の行動を振り返り、当時の状況や危険箇所、避難に関する情報をまとめ、右ページのマップにまとめた。



防災コーディネーター 「強い気持ちで早めの避難！」

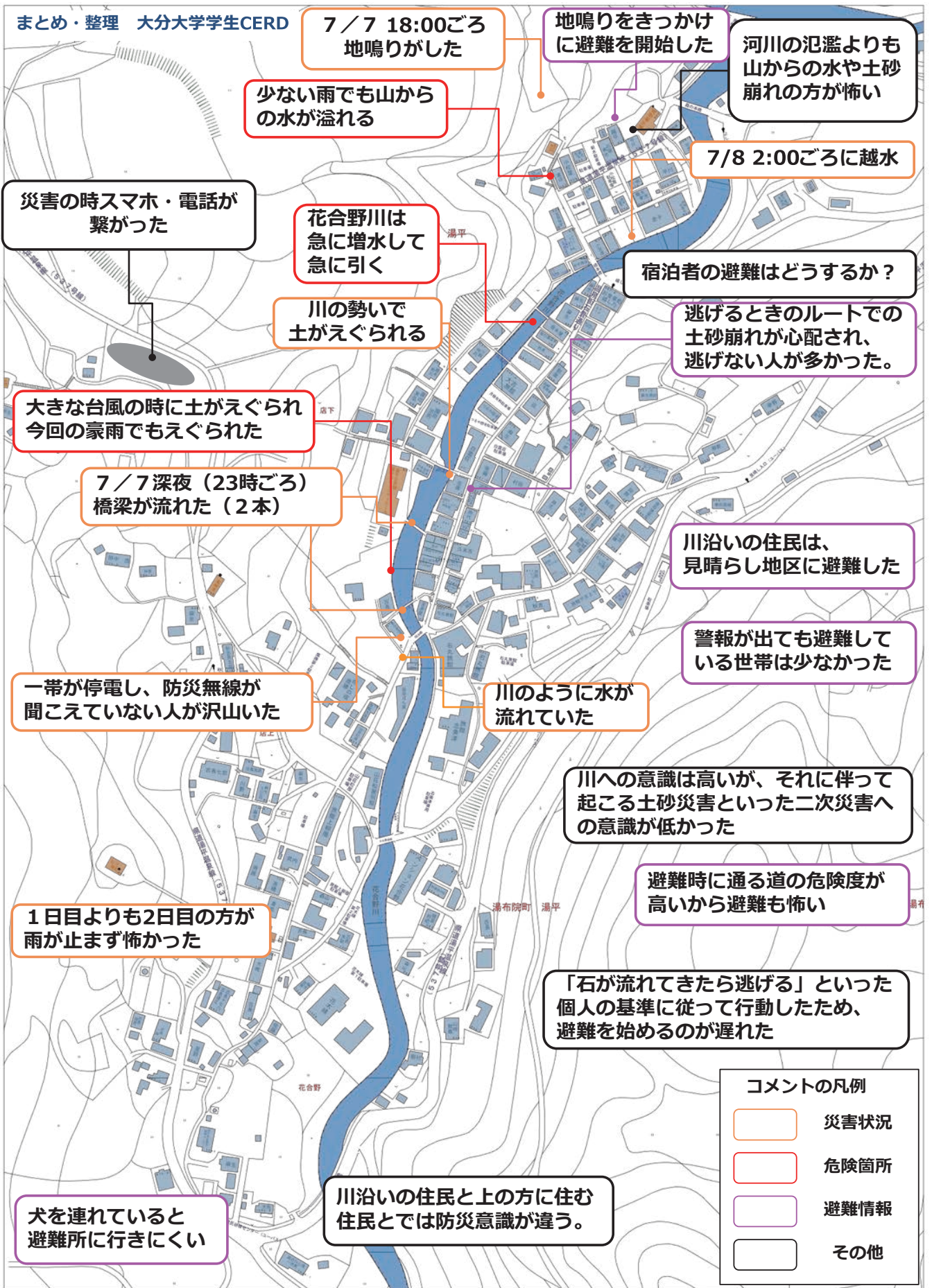
板井幸則



「令和2年7月豪雨」では尊い命が犠牲になるなど大きな被害を受けた湯平地区の方々と一緒に豪雨の振り返り研修を行いました。

この研修では、参加した方々が当時のことを学生に丁寧に教えながら図上に記録して行きましたが、その内容を見返しながら雨の猛威を知り「まさか」としか言いようがありませんでした。

想像を遥に超える経験をされて被災したにも関わらず、既に前を向き「<sup>ふるさと</sup>郷土」を愛する姿を拝見して、これこそが災害に負けない強い心であると感じました。



## 座談会

令和4年12月5日に、これまでの研修会に参加されてきた住民さん「麻生悦博さん・麻生美秀子さん・佐藤ひとみさん・横尾尚一さん」の4名と、大分大学減災センター長鶴成教授、大分大学学生CERDの大賀・南が参加し、座談会を開催した。



「令和2年7月豪雨の自分の様子」「防災研修に参加してどうだった?」「9月の台風14号、令和2年7月豪雨で行動の変化はあった?」「湯平地区の高齢者の状況」「温泉街としての未来に向けたまちづくり」の5つをお題とした内容になっている。

### 令和2年7月豪雨の自分の様子

**麻生(美)** 7月6日は家にいたんですよ。前日の雨で杉の丸太が上流から流れてきていたんですが、すごいなと思いながら、小雨だったからいいかなと思って家にいました。でも夜中から激しく降り出して、雷は鳴るし停電になるしで寝れませんでした。それからどうしようもなく道の駅に移動して、犬と車の中で過ごしました。次の日はいったん帰って、その日の夜は大分市の娘の家に一晩泊まっていたんです。

**南** もう数日間は湯平には居なかったんですね。

**麻生(美)** 昼は何とかなると思って湯平に居たんですけど夜だけ避難しました。もうずっと動いてるから足がぱんぱんになっ

て大変でした。

**佐藤** 7月6日のちょうど19時ぐらいだったと思うんですけど、川の音がゴロゴロ聞こえてきたので、なんかいつもと違うなって思って避難しました。元々逃げる準備はいつでもできるようにしていたので、皆さんがどこにいるのか状況を確認して大丈夫だなと思ってから避難しました。あと、線状降水帯も気になって確認していたんですがこれは危険だなと感じました。逃げた後はしばらく娘のところに避難しました。

**南** 日頃から備えていて役立ったことはありましたか？

**佐藤** もうすべてをリュックに詰め込んでいたので、お水とか簡易トイレとかは困りませんでしたね。

**大賀** そのリュックを作ったきっかけは

なんですか？

**佐藤** ずっと昔から裏山が崩れると生き埋めになるんじゃないかと思っていました。それで学生時代のころから、危ないと思ったらおにぎり握って準備してました。

### **防災研修に参加してどうだった？**

**麻生（美）** 勉強になりました。いかに危険なところかということがね。やっぱり早めの避難が必要ですね。本当参加して良かった。一人でも多くの人にお話を聞いてほしいけど、高齢者も多いからなかなか参加できませんよね。

**麻生（悦）** 参加した方がまた広めていてほしいですね。

**南** 参加できない方にもなんとかして伝えたいですね。

**佐藤** この研修に参加して、やっぱり湯平は上にも下にも逃げられないんだと改めてわかりました。

**横尾** 確信した？

**佐藤** 確信しました。犠牲者が出て大変悲しいことだったんですけど、その後に組長さんが一軒一軒どういう風に避難するかというの決めるようになっていて、それが本当に良かったなと思いました。

### **9月の台風14号、令和2年7月豪雨で行動の変化はあった？**

**麻生（悦）** 台風の際は令和2年豪雨の反省を生かしてLINEで避難を促すシステムを作って、それで連携をとっていました。

そのおかげで57名ぐらいの方が避難してくれました。今までこんなに避難したことはなかったと、皆さんも動いてくれて人的被害も無かったというのもよかったです。

**大賀** 連絡網はLINEのほうで作っていたのですか？

**麻生（悦）** 組長さんから自治委員さんや消防に連絡がいくようにLINEでなっています。今回はそれが役立ったと思います。

**横尾** 令和2年の豪雨でも、一番行動が変わったのは、危なくなれば逃げれば大丈夫と思ってたのが、逃げるときに危ないっていうのは、つくづく感じました。色々な湯平の全面の地図とか写真と一緒にここは崩れた可能性がありますよっていうお話を聞いて立て札看板ぐらいにしか思っていなかった急傾斜地区の立て看板は本当に危ないからあるんだなって感じました。また、防災の知識を深めようとか、連絡網作ったりとか、防災組織ができあがって常に協力の構造になったのはすごくいいことですね。





## 湯平地区の高齢者の状況

**佐藤** 台風とかに限らず大雨降りそうな時は、必ず高齢者の方には何回も連絡を取っています。だけどそんな方は、もう来そうだって時に晴れているうちから湯平から出ています。そんな風に自分が動けないから雨が降る前に避難する人は何人かいます。

**横尾** 一人暮らしで行動できない、夫婦でいても行動できない、というのはどのくらいいるの？

**佐藤** 詳しくはわからないんですけど、私



の近所では、一人暮らしが10人います。施設に入ったり遠くに行ったりとか昨年3人減った

んですけどね。10人とは日頃から早めに避難するように言ってるし、道路や家の状況やらも、お知らせしてます。

**麻生(美)** 車を運転できない人や免許返納した人もいて、自分ではすぐに避難できない人もいます。移動方法の課題もあって、そこをしっかりと整備してほしいですね。



**佐藤** それといつも思うのが、区長さんとか役をしてる人が避難できないでしょう？そこが心配です。

**鶴成** 日田のですね大津留っていうところは、平成29年の7月豪雨の時に区長さんが防災無線で「もうわしは逃げる、もうここから先は知りません」という形でちゃんと言って、みんなに危機感を与えたということでした。

**横尾** 危ないときは連絡だけして、「うち危ないけん出ます」と避難して、危なくなったら、帰ってきて区長の業務すればいいだけです。それをやっぱ区長やけん残らな悪いって思うとやっぱ二次災害とかに繋がりますよね。



**麻生(悦)** やっぱ命が大事やから安全なところに。

**南** 自分を守るための決断力とかがそういうときは必要になりますね。

## 温泉街としての未来に向けたまちづくり

**南** コロナもあって、お客さんが減ってきていると思うんですけど、これからもっと栄えてほしいのか、それとも今みたいな静かな感じで細くお客さんをおもてなししたいのかってところで皆さんの考えを聞きたいです。

**横尾** それこそ市の振興局さんのお計らいで、今後の湯平についてまちづくり協議会というのを立ち上げて頑張っていきませんかとかやっているんですが、元の湯平のようにたくさんお客さんが来るまではなっていないって人が結構いますね。

**南** それは多いですか？

**横尾** まあ半々くらいかな。やっぱりこの静かなひなびた温泉地のイメージも大事だと思います。

**佐藤** 聞いてみると皆さんはこのなんにも無いのが良いって言いますからね。静かで、



ずーっと空見て寝とってというのが良いっていうから色々無い方がいいかもですね。

**麻生(悦)** ゆっくりと温泉に浸かって、遊歩道を歩きながら、あとはゲームや飲食ができるところがあって、まあちょっとほんとに静かな湯平温泉街で、訪れた人たちと地元の人たちが交流できる温泉街ができたらいいんじゃないかとは思ってます。

**横尾** 自然はもう最高だし。

**麻生(悦)** まちづくりで秋は紅葉盛り上げたり、夏はロックフェスティバルをしてみたり。



**南** たまにはみんな集まって盛り上がるのもいいですね。ずっと静かなわけではなく、たまにははじめてって感じで。

**横尾** 花合野川も雨が降ると暴れて危ない川にはなるんだけど、観光の一部として、ただ頑丈にするだけじゃなくて、花合野川は綺麗で、橋から眺めたり、下に降りたりとか、まあそういう散策できるような川にも目指したいんです。雨降ると危ないけんとか言うんじゃないくて、川も観光に役立たい。昔からの温泉・石畳・花合野川が湯平の文化で、それで湯平が動いてきてるから。

**麻生(悦)** どこか川の近くに椅子を置いてコーヒーでも飲める場所が欲しいですね。

**南** そういうところでの住民さん同士の繋がりも大事ですね。



# 緊急時避難経路の危険箇所

令和4年4月10日に第4回目のまちづくり研修会が開催され、緊急時避難経路の確認を実施した。住民約20名が参加し上流・中流・下流に分かれ、緊急時に避難先となる場所までの経路の安全性を実際に歩きながら確認した。

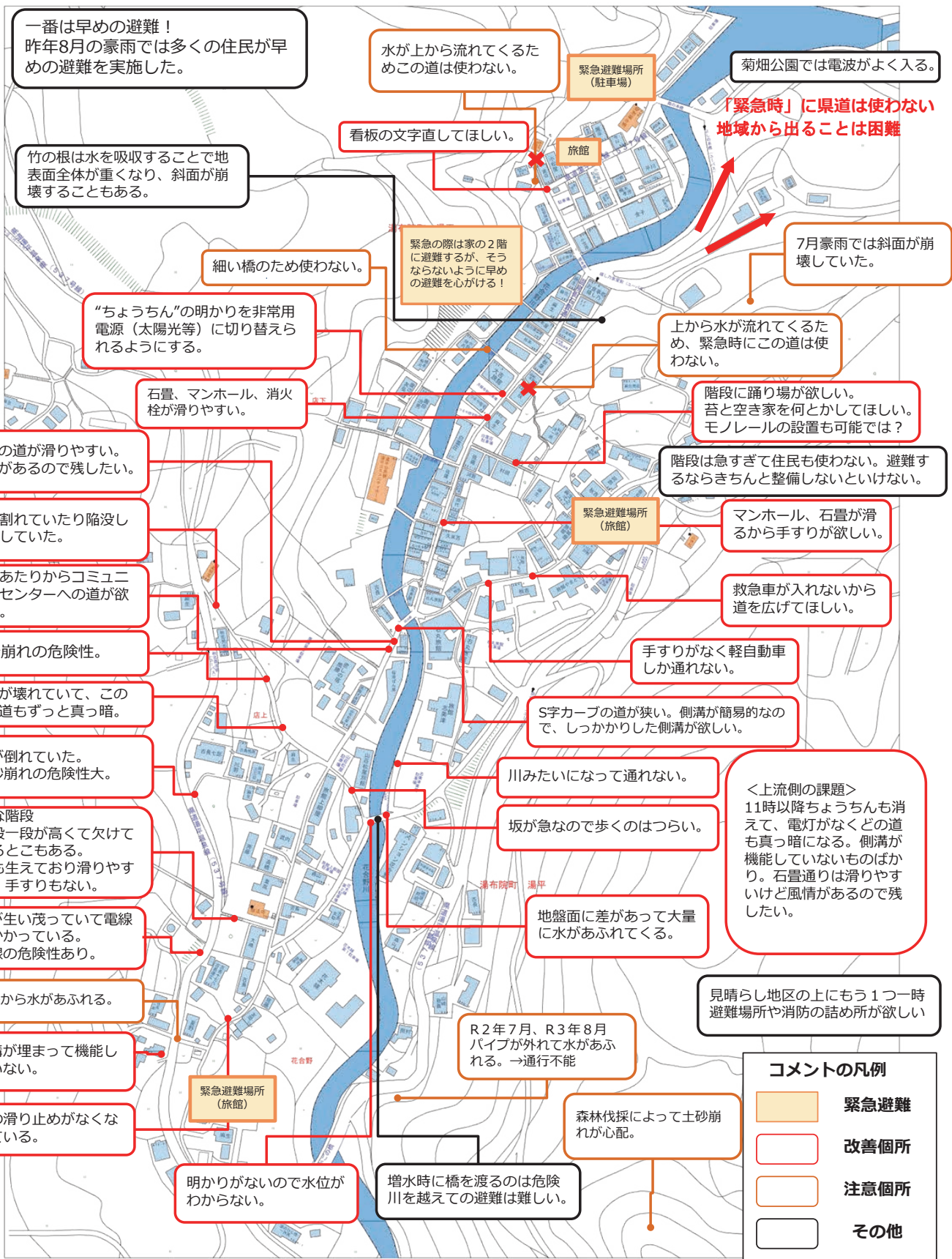
緊急時の避難の際に危険となる箇所や改善して欲しい箇所をマップにまとめた。



湯平1区  
麻生めぐみさん  
「災害を振り返って」



2020年7月の豪雨では、停電や道路が損壊し、4人の尊い命が奪われました。その時の状況も含めて、避難のタイミングや避難場所等の勉強会を行いました。昨年の台風14号では、花合野川沿いを中心に、早めに泊り客への連絡を行い旅館業の方も無事に非難することが出来ました。今後も、いつ災害が起こるか分かりません。勉強会で学んだ事を活かして、安心して過ごせる湯平でありたいです。



**コメントの凡例**

緊急避難	緊急避難
改善箇所	改善箇所
注意箇所	注意箇所
その他	その他

# 災害から命を守る「我が家」の約束シート

このシートは、災害時の対応を事前に家族で話し合い、いざという時に迷うことなく素早く行動できるよう、また、もし家族が別々の場所で被災した時も、情報を共有することで落ち着いて行動できるように準備するもの。作成後は目につくところに貼っておくことが好ましい。



小さいお子さんや高齢者がいる世帯はどのタイミングで避難をするか話し合いましょう。早めの避難を心がけて！

避難をする場所はあらかじめ決めておき、「万一の時はそこに避難するよ」と連絡を取っておくことが大切です。

災害の人的被害を防ぐには、住んでいるご近所の助け合い「近助」が1番効果的です。お互いに声を掛け合い、状況を確認して行動に移しましょう。

日頃、薬を飲んでいる方は必ず準備を忘れないようにしましょう。

**湯平地区 災害から命を守る 湯平 太郎 家の約束**

<b>避難開始</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 大雨・洪水警報が出たら</li> <li>② 警戒レベル3 高齢者等避難が出たら</li> </ul>
<b>避難場所</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 大分市の華子（娘）の家</li> <li>② 指定避難所 湯布院B&amp;G 海洋センター</li> </ul>
<b>声かけ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 隣の虎次郎さん（足が悪いので早めに）</li> <li>② お向かいの麻生さん（一緒に避難）</li> </ul>
<b>緊急連絡</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 華子（娘） 090-□□□□-〇〇〇〇</li> <li>② 小太郎（息子） 090-△△△△-□□□□</li> </ul>

警戒レベル	避難情報等
<b>5</b>	きんきゅうあんぜんかくほ <b>緊急安全確保</b>
〜〈警戒レベル4までに必ず避難!〉〜	
<b>4</b>	ひなんしじ <b>避難指示</b>
<b>3</b>	こうれいしゃとうひなん <b>高齢者等避難</b>
<b>2</b>	大雨・洪水・高潮注意報 （気象庁）
<b>1</b>	早期注意情報 （気象庁）

**情報収集ツール**

- NHK
- 防災ラジオ
- 携帯

**非常持ち出し品**

- 病院の薬
- 保険証
- おくすり手帳

湯平みらい会議（湯平区）・由布市防災安全課・湯布院地域振興局地域振興課・大分大学減災・復興デザイン教育研究センター

20

# 湯平地区 災害から命を守る \_\_\_\_\_ 家の約束

避難開始

① \_\_\_\_\_

② \_\_\_\_\_

避難場所

① \_\_\_\_\_

② \_\_\_\_\_

声かけ

① \_\_\_\_\_

② \_\_\_\_\_

緊急連絡

① \_\_\_\_\_

② \_\_\_\_\_

警戒レベル	避難情報等
<b>5</b>	<small>きんきゅうあんぜんかくほ</small> <b>緊急安全確保</b>
~\警戒レベル4までに必ず避難!\~/	
<b>4</b>	<small>ひなんしじ</small> <b>避難指示</b>
<b>3</b>	<small>こうれいしゃとうひなん</small> <b>高齢者等避難</b>
<b>2</b>	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
<b>1</b>	早期注意情報 (気象庁)

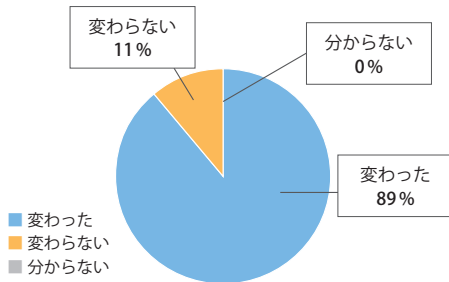
情報収集ツール

非常持ち出し品

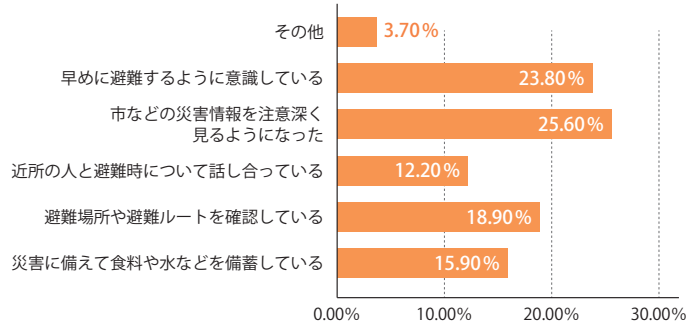
## 由布市地域振興課が実施した 令和2年7月豪雨に関するアンケート集計結果

配布世帯数：111 世帯  
回答数：64 世帯  
回答率：57.66%

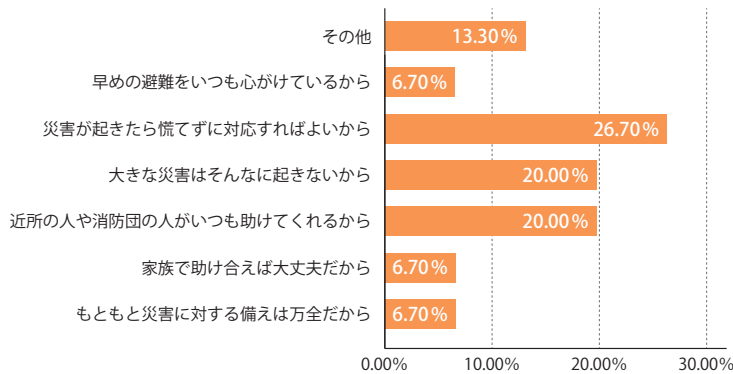
### ・ 令和2年7月豪雨の前後で 災害への意識は変わりましたか？



### ・ 変わったと回答した世帯へ質問 どういう風になりましたか？



### ・ 変わらないと回答した世帯へ質問。変わらない理由は何ですか？

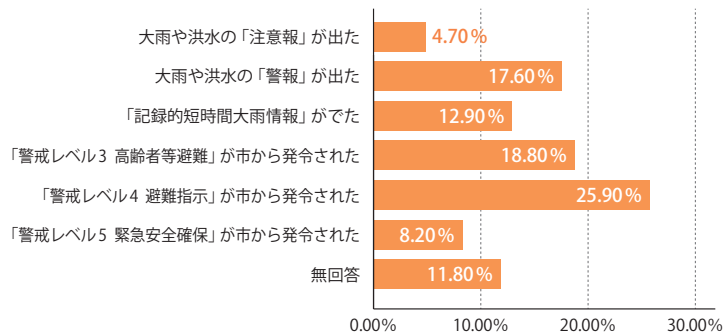


令和2年7月豪雨の影響により、災害に対する意識が変わったと回答した人の割合が約90%となっている。発災から2年しか経過していないこともあるだろうが、時間の経過による災害伝承の風化をさせないようにしていただきたい。

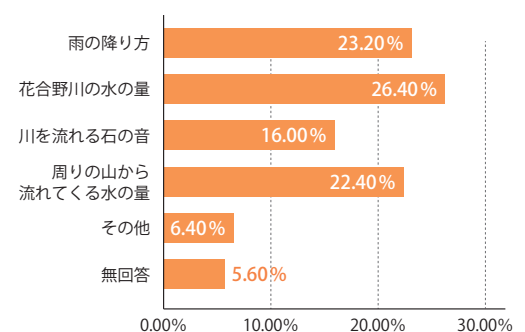
どのように意識が変わったかについては研修会で何度も伝えていた「早めの避難」の回答が最も多かった。その他の意見には「避難場所やルートの危険箇所を日頃から確認している」「スマホアプリで情報を収集している」など常に災害に備えていたり、情報の積極的な活用をしている回答も見られた。

変わらない理由については「災害が起きたら慌てずに対応すればよいから」「近所の人や消防の人がいつも助けてくれるから」「大きな災害はそんなに起きないから」の回答が多かった。自分の命を守るためには、日頃からの備えによって緊急時に慌てずに行動することや、「どうせ大丈夫だろう、誰かが助けてくれる」という意識を捨てなければならない。

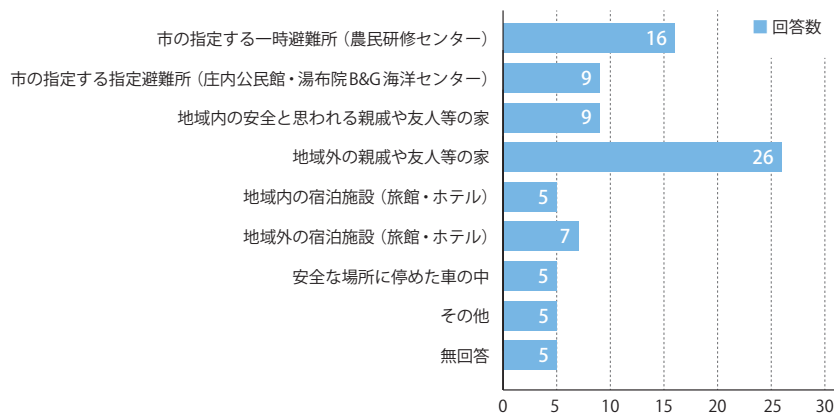
・避難をするタイミングについて  
どのタイミングで避難しようと思いますか？



・警報等以外での避難の  
判断材料はありますか？



・どこに避難しますか？



研修会の中では湯平地区は特徴的な地形等によって災害リスクが高いため、「高齢者等避難」の発令があったら地区外への避難を開始してほしいと伝えていたが、アンケート結果では「高齢者等避難」より2段階レベルの高い「レベル4 避難指示」を避難のタイミングとしている回答が多く見られた。

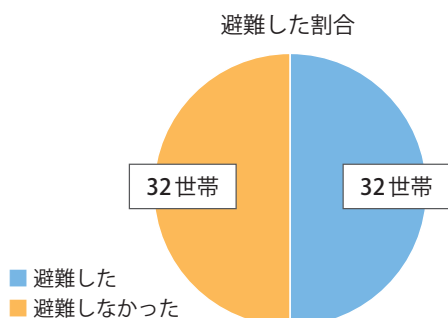
避難の判断材料としては「花合野川の水の量」の回答が一番多く、その他の回答の中にも「石の音が聞こえたら・川のおいで判断する」といった回答もあり、経験によって裏打ちされた判断基準も見られた。雨の状況によっては短時間で急激に水量が増加する。空振りでもいいので余裕をもって避難することが命を守ることに繋がる。

避難場所については、地域外の親戚等の自宅やホテルの回答が多くあった。早いタイミングでの避難開始と合わせて地区外の避難場所を考えてもらいたい。また、体が不自由などという理由で避難しないという回答も見られた。そういった方の対応ができる避難所の情報発信も必要である。

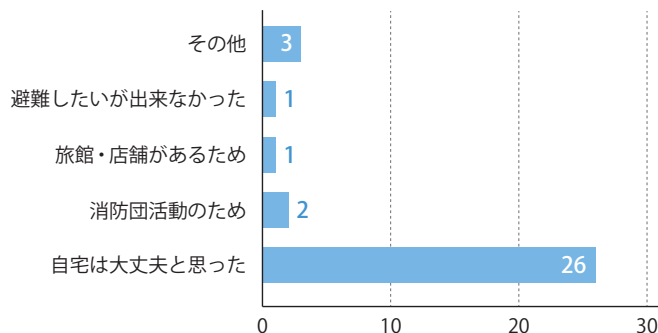


配布世帯数：100世帯  
 回答数：64世帯  
 回答率：64%

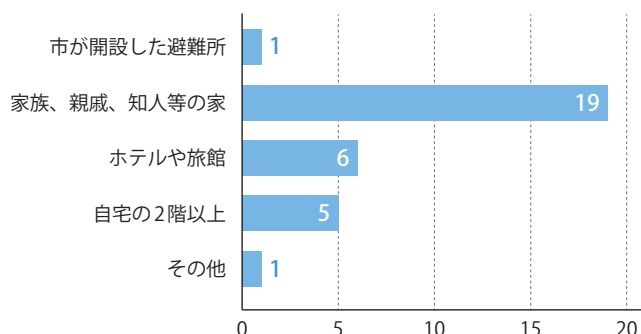
・ 台風14号の時に避難しましたか？



・ 避難しなかったと回答した方へ質問  
避難しなかった理由は何ですか？



・ 避難したと回答した世帯へ質問  
どこに避難しましたか？



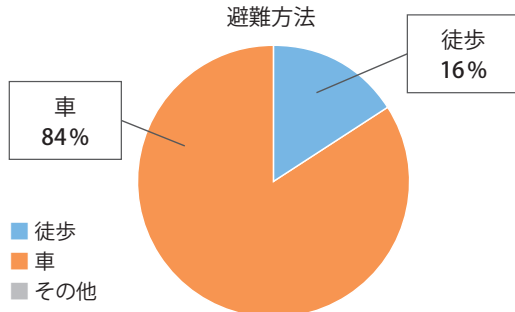
実際に避難した世帯の割合は回答数のうちちょうど半分であった。

避難しなかった理由としては「自分は大丈夫だと思った」という回答が一番多く、住んでいる場所が川の近くかどうかによっても災害への意識が違うことが推測される。川付近の災害だけでなく、地すべりや土砂災害にも意識を持ってもらいたい。その他の回答としては「仕事・避難するのが難しい」という回答もあった。命を最優先に行動することと、高齢者など避難が容易でない住民の皆さんへの配慮や避難方法の仕組みが求められる。

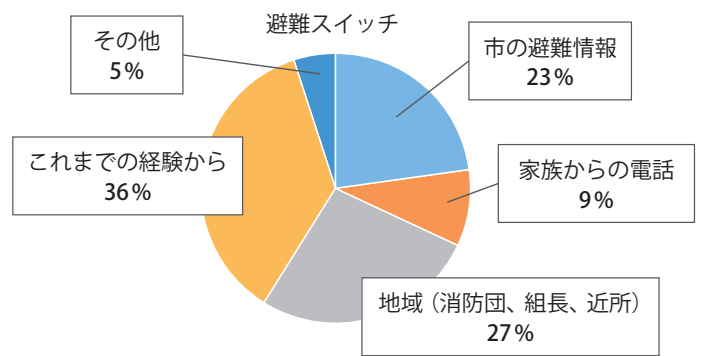
避難場所として「市が開設した避難所」に避難したのは1世帯にとどまり、親戚等の自宅に避難した世帯が多くみられる。事前に地区外の避難場所を決めていたり、避難場所での過ごしやすさを求めている傾向がある。

・何時ごろに避難開始しましたか？

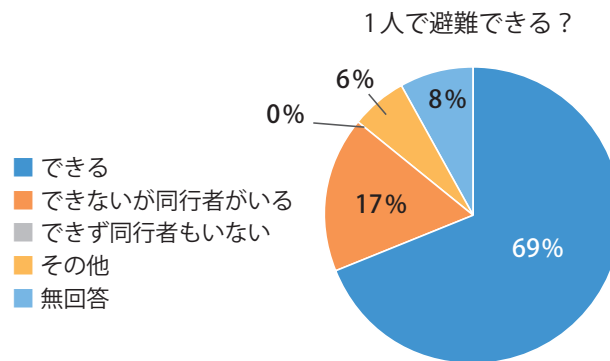
・避難方法は何でしたか？



・避難のきっかけは何でしたか？



・緊急時に1人での避難は可能ですか？



避難開始のタイミングについては市からの「高齢者等避難」が発令される9月18日9時以前の前日のうちに避難した世帯が6世帯で、それ以降が大半であった。暗くなってから状況が悪くなる場合もある。そのことを想定して、明るいうちからの避難も必要である。

避難のきっかけとしては「これまでの経験」が最も多く、令和2年7月豪雨の経験と記憶が要因であるとみられる。その次に地域内からの呼びかけや家族からの電話など自分以外からの働きかけによって避難を実施した人も多い。この結果から、隣人の声掛けや電話など直接的な呼びかけが効果的であるとわかる。これを活かした取り組みによって多くの命を守れるかもしれない。

1人での避難については「できる」「できないが同行者がいる」という回答が多かった。避難できる人でも高齢者と一緒であるという理由から避難をためらう場合もある。住民の皆さんが平等に早期避難できるような体制作りも必要である。

# 住民の皆さんの声

由布市地域振興課が実施したアンケートの中での避難に関する意見に加え、大分大学学生 CERD が令和 4 年 11 月 20 日に実施したヒアリング調査の結果をまとめた。

## 湯平地区の災害リスク

- ・ 100年に1度といいますが、今では毎年です。災害をもたらす異常気象が恐ろしいです。
- ・ 急な崖が多いですが、崖崩れの心配をしている人が少ないです。
- ・ 地下水が流れているので、地すべりが怖いです。
- ・ 水害や地震だけでなく、予想がつかないほど災害リスクはたくさんあります。
- ・ 空き家も増えていて火災なども怖いです。
- ・ 災害によってライフラインが止まる可能性もあります。



## 防災面の課題

- ・ 夜の避難が不安なので、避難路の照明が欲しいです。
- ・ 県道 537 号線の外灯がないので、夜は花合野川の状況がわかりません。
- ・ 道路が寸断されると湯平地区が孤立するので、川西方面へのトンネルなどの道路があるといいと思います。
- ・ 避難の時に花合野川を渡らないといけませんが、車がないため、避難のハードルが高いです。
- ・ 避難所や河川の復旧を早急をお願いしたいです。復旧が終わる前に次の災害がやってきてしまいます。
- ・ 地区内はどこも危険です。ここなら安全だといえる場所が欲しいです。

## どんなまちになってほしい？

- ・竹田市のように建築的名所があると、湯平地区の魅力が上がると思います。
- ・交通の便がよくなってほしいです。
- ・温泉の賑わいを取り戻して、観光客や若者が集まるようになってほしいです。
- ・お店を増やしてほしいです。
- ・イベントなどを開催して防災にも取り組んでもらいたいです。



## 湯平地区のいいところ

- ・空気がきれいで環境がいいところです。
- ・コロナの流行や水害前はイベントがよく開催されていてよかったです。
- ・温泉街の雰囲気、紅葉、人が魅力です。
- ・住民同士の繋がりが良いです。
- ・映画やTVの撮影がよく行われています。
- ・ゆっくりできる温泉街です。

## その他

- ・今思うのはなんといっても早めの避難しかありません。せっかく命を頂いたのだから、大事に生きていきます。
- ・災害によって川が怖い存在になりました。
- ・地区の中から犠牲者が出たことが歯がゆいです。
- ・令和2年7月豪雨の経験から連絡網が作られ、台風の時にも役立ちました。

## 研修会を終えてのコメント

由布市 相馬市長



5回にわたる防災・減災まちづくり研修会を終え、大変に有意義な研修であったと感じております。

学生の皆様には、湯平地区の復興に向けた数多くの貴重な声を挙げていただき、深く感謝申し上げます。

今後もさらに「自助」「共助」「公助」による災害に屈しない体制整備を図り、安心・安全に暮らせるまちを実現してまいりたいと考えております。引き続き、皆様方の変わらぬご支援ならびにご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

大分大学減災センター  
鶴成教授



湯平地区の皆様、令和3年度から一緒に取り組みました地域防災学習会に最後までお付き合い頂き、ありがとうございました。この冊子を学生 CERD 南太賀君が「取り組みをまとめて、地域の皆様に配布したい」と言われた際には私は大変うれしい気持ちになりました。これも学生教育の成果となりました。本当にありがとうございます。大人になった学生らが湯平の石畳とともに地域の皆様の笑顔を思い出し、きっと家族を連れて再び現れることでしょう。その時はどうか温かくお迎えください。私はいつでも湯平に遊びに行きます！



第五分団第一部  
部長 秋吉紀彦さん



私たちが生活している湯平温泉場では令和2年7月に発生した豪雨、ならびに昨年（令和4年）9月の台風で2度に渡り被災致しました。令和2年の豪雨では4名という尊い命が失われました。その事を踏まえ9月の台風では人命を第一に考え早い住民の避難を徹底致しました。道路や家屋が崩壊し、あらゆる場所で修復作業が行われていますが今もまだ危険な箇所があります。今後同じような災害が起きた時も地域の連携、早い避難の呼び掛けを徹底して参りたいと思います。

防災危機管理課  
秋吉寅男さん



4名の尊い命が犠牲となった令和2年7月豪雨による災害がきっかけとなり、地区内で災害時緊急避難伝達体制を整え、また大分大学 CERD の協力を受けながら「防災・減災まちづくり研修会」を5回に渡り実施してきました。その間に湯平地区自主防災会も設立し、少しずつ防災意識の向上を図っています。

現在は「防災・減災まちづくり研修会」を継承して自主防災会が中心となり、研修会等を行っておりますが、現状として研修会に参加する住民はある程度メンバーが決まっており、全体的にみれば参加していない住民の方が多いという課題があります。住民1人1人の防災意識が向上し、湯平地区の地域防災力が醸成するまでには、これからも地道に防災研修や防災訓練を継続していきながら、防災・減災まちづくりの取り組みが途切れることが無いよう、少しずつ地区全体に広げていくしかないと考えます。



地域振興課  
長谷川美由紀さん



この2年、復興に向けての取り組みのお手伝いさせていた  
だきました。その中でも、命を守る取り組みとして、皆さん  
と一緒に「防災・減災のまちづくり研修」を、大分大学の減災・  
復興デザイン教育研究センターをはじめ学生 CERD さんの全  
面協力を頂きながら、全5回実施することができました。

研修では、災害当時の行動のふりかえりや夜間の避難路  
の確認などを行いました。しかし、研修の内容は「自分の  
命を守る」という、とても大切なことにもかかわらず、湯  
平の住民250名の皆さん全員にその大切さが伝えきれてない。と感じてい  
ます。そのためにこの冊子が、湯平地域が抱える災害リスクや、正しい防災・  
減災の知識を伝え、未来に向けて災害に負けない湯平を創っていく一助にな  
ればと思います。

この冊子製作に協力を頂いた湯平の皆さんと、多大なお力添えをいただい  
た大分大学の関係者（特に担当の南さん）に感謝申し上げます。



湯平区長  
麻生 悦博さん



減災防災の研修を令和3年度から令和4年度にかけ5回程実施しました。湯平地域が温泉地である為、地滑りしやすいことや、昼間であれば夜間であればどこに避難すればよいかを実際、皆で行動してみたこと等、研修を重ねたことは大変良かったと思えました。自分や身近な人の命を先ずは守ることや、これまでの大きな災害被害のことを毎年思い出して区民皆で共有することが人的被害を防ぐことになるということも心に残りました。

大分大学の先生方や学生さん達、市、県など関係する皆様方のお陰で減災防災に対する意識が高まりました。これから避難警戒レベル2～3で緊急連絡網を通じ早めの避難を呼びかけたいと再認識しました。







「備え、守り、助け合う」防災・減災のまちづくり研修会 報告書  
湯平地域 災害の記憶と復興

発行日

2023年4月

発行者

湯平みらい会議

編集者

大分大学 学生 CERD 南太賀

協力

大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター

由布市役所 防災危機管理課

由布市役所 湯布院振興局 地域振興課

大分大学 学生 CERD

お問い合わせ先

由布市役所 湯布院振興局 地域振興課

TEL.0977-84-3111